

[成果情報名]ブドウの害虫クビアカスカシバの防除体系

[要約]クビアカスカシバの幼虫に対して、パダン SG 水溶剤は高い殺虫活性を示し、食入防止効果は散布後 30 日程度認められる。成虫発生の初期（6 月上～中旬）と中期（7 月上～中旬）の薬剤散布により、高い防除効果が得られる。

[担当]果樹試・環境部・病害虫科・内田一秀

[分類]技術・普及

[背景・ねらい]

近年、ブドウでは枝幹害虫のクビアカスカシバの被害が問題となっている。現在の防除暦では、品種によってカサかけ・袋かけ後に、パダン SG 水溶剤による防除が採用されているが、効果は必ずしも十分ではない。そこで各種薬剤の殺虫効果を調査し、有効な防除体系を検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1．食餌浸漬法による幼虫に対する殺虫活性は、パダン SG 水溶剤が最も高い（表 1）。
- 2．パダン SG 水溶剤は、散布後 30 日程度経過しても、食入防止効果が認められる（表 2）。
- 3．成虫発生の初期（6 月上～中旬）と中期（7 月上～中旬）に、パダン SG 水溶剤を散布することで、高い防除効果が得られる（表 3、図 1）。
- 4．「巨峰」と「ピオーネ」では、幼果の直径が 6mm までは、パダン SG 水溶剤の散布による果粉溶脱が認められない（表 4）。

[成果の活用上の留意点]

- 1．薬剤の効果を高めるため、粗皮削りを行い、ていねいに散布する。
- 2．パダン SG 水溶剤の成虫発生初期（6 月上～中旬）の散布は、果粉溶脱のおそれがあるため、果粒が小豆大までを目安に行う。
- 3．現在、パダン SG 水溶剤の登録は「大粒種ブドウ」のみであるため、デラウェアには使用しないととも、飛散に注意する。また、農薬登録上の使用時期（収穫 21 日前まで）にも注意する。

[期待される効果]

- 1．クビアカスカシバによる被害が軽減することで、ブドウの安定生産につながる。

[具体的データ]

表1 各種薬剤の食餌浸漬法による幼虫の死亡率(2012~2013年)

供試薬剤	希釈 倍数	死亡率(%)			
		1日後	3日後	7日後	11日後
パダンSG水溶剤	1,500	82	100	-	-
フェニックスフロアブル	4,000	27	64	73	100
アディオフロアブル ^{z)}	1,500	82	82	82	82
スカウトフロアブル ^{z)}	3,000	30	30	30	30
アーデントフロアブル ^{z)}	2,000	10	10	30	30
水道水(対照)	-	0	0	0	0

方法：各薬剤に浸漬・風乾した人工飼料(インセクタ LFS)に、中齢幼虫を2012年は11頭ずつ、2013年は10頭ずつ接種した。

z) 2014年1月現在、ブドウでは他害虫に登録。

表2 パダンSG水溶剤散布後の経過日数による幼虫の食入防止効果(2013年)

幼虫接種日	接種虫数(頭)	生存虫数(頭)	食入痕数(箇所)	食入程度(虫糞量・mg)
散布7日後	10	0	0	10
散布15日後	10	0	2	50
散布23日後	10	3	3	172
散布31日後	10	2	3	82
無散布	10	9	11	654

方法：供試樹には4年生の「赤嶺」を用いた。各接種日において、ふ化21~28日後の幼虫を接種し、7日後に供試虫の生死と食入状況を調査した。苦悶虫は死亡とした。

表3 パダンSG水溶剤による各防除体系の被害抑制効果(2013年)

散布体系	散布時期			寄生虫数 (頭) ^{z)}	被害 箇所数 ^{z)}
	6月	7月	8月		
発生初・中・後期	-	-	-	1.9	2.9
発生初・中期	-	-	-	1.7	1.7
発生中・後期	-	-	-	7.1	8.2
慣行	-	-	-	10.4	7.3

供試樹：巨峰(山梨市牧丘町西保中)

散布日：6/14、7/19(一部7/11)、8/12

z) 10aあたりの数値

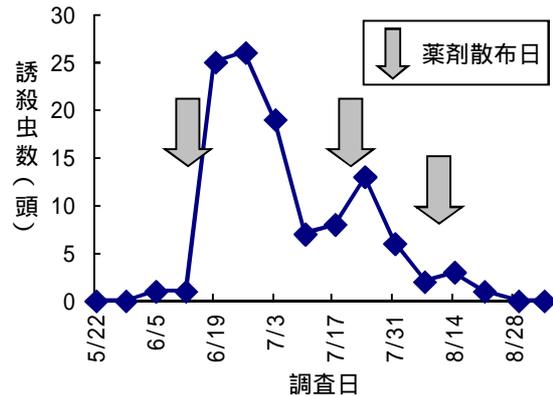


図1 防除体系試験における成虫の発生活消長(2013年)

表4 パダンSG水溶剤の散布による果粉溶脱の発生(2013年)

散布日	巨峰(5房/処理)				ピオーネ(4房/処理)			
	平均粒径 (mm)	程度別果房数 ^{z)}			平均粒径 (mm)	程度別果房数 ^{z)}		
		-	±	+		-	±	+
6/14	6.3	5	0	0	6.1	4	0	0
6/18	9.2	3	2	0	9.8	3	1	0
6/23	12.7	4	1	0	13.5	0	4	0
6/28	16.7	0	5	0	17.7	0	2	2
無散布		5	0	0	4	0	0	0

散布方法：ハンドスプレーで、薬液が滴るまで十分量を散布。

z) - : 発生なし、± : 軽微な溶脱、+ : 問題あり

[その他]

研究課題名：ブドウの害虫クビアカスカシバの防除対策

予算区分：県単(重点化)

研究期間：2011~2013年度

研究担当者：内田一秀、村上芳照、綿打享子、功刀幸博